

## 2018年度ランゲージラウンジ活動報告

教養教育センター ランゲージラウンジ運営委員会

## 1. 総括

2008年に始まったランゲージラウンジ活動は、まず語学検定試験用の問題等をそろえて学生たちが自律的に学習できる環境をつくることから始まった。現在では、英語とスペイン語はILSSP (Independent Language Study Support Program) を開設し、学習者自らが具体的な目標を設定して、そのゴールに向かって定期的にチューターと面談しながら(英語)、あるいはオンライン学習を用いて(スペイン語)、自律学習実践ができるように支援を行っている。また、それ以外にも、言語によっては曜日・時限を決めて、ネイティブスピーカーとの会話実践の場を提供したり、日頃の学習のサポートを行ったりしている。

以上のように、現在は、各外国語がそれぞれ独自の事情を考慮して行っている。引き続き次年度についても、留学生との交流の機会を増やし、言語がコミュニケーションの道具であることを実感できるような場を増やすことを目標に、多様な外国語支援活動を行っていききたい。

## 2. 活動詳細

## 2.1 英語部門：鈴木陽子

英語部門では、昨年度に引き続き、英語の自律学習を一学期間にわたって支援するIndependent Language Study Support Program (ILSSP) とEnglish Video Contest and Workshops を実施した。

ILSSP は、本学非常勤講師の山森由美子氏および坂井誠氏を担当者とし、春秋学期共に月曜日(11:00-15:30)、水曜日(11:00-12:55)、木曜日(13:00-15:30)に実施した。各学生が設定した学習目標に沿って教材や学習方法を提案し、ポートフォリオ(学習記録)を活用して自律的に学習計画や目標が立てられるよう助言を行なった。説明会には多くの学生が集まり、採用予定人数を大幅に超える申し込みがあったが、個別指導という性質上、希望する学生全員にプログラムを提供することは叶わなかった。選抜は参加申込書に記入された英語学習の目標を勘案して行なった。本年度の参加者数は以下の通りである。

表1 ILSSP実績

|   | LE | LF | LA | EE | EB | EG | SG | SW | JU | JC | JP | JG | KS | KC | PS | PE | 計  |
|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 春 | 1  | 1  | 1  | 1  |    | 2  | 2  | 2  | 1  |    | 4  | 1  | 6  | 1  | 1  |    | 24 |
| 秋 | 3  |    | 2  | 2  | 1  | 2  | 2  |    | 1  | 1  | 2  | 1  | 4  | 1  | 2  |    | 24 |

English Video Contest and Workshopsでは、本学助教Thomas Dax氏を担当者とし、ビデオ制作のための英語によるワークショップを春学期3回、秋学期2回の計5回実施した。また、必ずしもこれらのワークショップへの参加を前提としない形で応募者を募り、英語での短いビデオを制作し、完成作品を上映するコンテストを企画した。各ワークショップのテーマは以下の通りである。

表2 English Video Workshopsのテーマ

|     |   |
|-----|---|
| 4月  | ワークショップとコンテストの趣旨説明                        |
| 5月  | ビデオ制作に向けてブレインストーミング                       |
| 7月  | 絵コンテ作成や撮影手法について                           |
| 10月 | Windows Movie MakerやiMovieなど編集ソフトの使用法について |
| 11月 | 問題の解決作業                                   |
| 1月  | 作品上映会                                     |

本年度のコンテストには、28作品の応募があり、61人の学生が参加した。学生が楽しみながら英語を使う機会、また自律してプロジェクトを企画・実行する場を提供することを目的としたプログラムであった。

来年度は、ILSSPに参加することができなかった学生や英語学習に関するさまざまな質問や悩みを抱える学生に向けた新たな取り組みとして、一回20分のセッションから参加可能な学習支援プログラムEnglish Clinicを開設予定である。この新しいプログラムによって、より多くの学生の要望に柔軟に応えていきたい。

## 2.2 ドイツ語部門：吉田真

2018年度ランゲージラウンジ(ドイツ語部門)は「ドイツ語 de ランチ」と題して、森本康裕氏(本学非常勤講師)が毎週金曜日の昼休み(12:30~13:20)に行なった。毎回定期的に参加する学生の人数は年間を通して5名程度であった。参加者の大半はドイツ語初級を履修している1年生の学生だったが、中級ドイツ語を履修している2年生の学生やドイツ語未修者も参加し、ドイツ語だけでなく、ドイツ語圏の文化に関するさまざまな情報を提供する場となった。

教材としてはドイツのマスメディアが提供するインターネット上のウェブサイトTages SchauおよびSpiegel TVを利用し、ドイツ語リスニングや基礎文法項目の解説、重要なフレーズや単語の確認、すでに授業内で学んだ文法事項の簡単なおさらい、典型的なドイツ語の言い回しなどを学習するとともに、現代のドイツの時事的な問題の解説を行った。

本講座では春秋両学期を通じ、授業時に学んだ基本的なドイツ語文法の復習やその応用のための機会を提供すること、参加者がドイツ語やドイツ文化に親しみをもってもらえるよう努めること、参加者のドイツ語学習へのモチベーションを高めることを目標とした。

## 2.3 スペイン語部門：大森洋子

スペイン語では、オンラインコースを行なうとともに、Francisco GARZÓN先生を講師に、Tertuliaと名付けて、会話実践の時間も設定した。

自律的な学習をより効果的に行えるオンラインコース、スペイン文化センターが開設しているAVEがリニューアルし、AVE globalとなり、スカイプ授業を含む自律学習コースとなり、コース最初、および途中で2回の受講を行なうことが可能になり学生たちの学習意欲の向上がみられた。昨年度より大学での学習内容に合致したものを工夫、さらに、どのような会話がなされるかについて事前に配布物を用意し、スムーズに学習ができるようにした。また、学習者のニーズ、レベルによってコースをカスタマイズし、そのコース学習を行なっている学生が何名かいる。結果を期待したいところである。

一方、会話スペースでは、一部の授業とコラボする形で、スペイン語圏の生活、都市について聞いてくるなどの課題を出すことによって、授業外での学習を促した。秋学期は、より具体的に目標を持った学生の来室があった。今後は、授業との連携、スペイン語圏への興味をかき立てるような工夫を担当者と話し合い、すすめていきたい。学生たちに外国語でコミュニケーションすることの楽しさ、新しい気づきなどを提供したい。

## 2.4 中国語部門：洪潔清

2018年度中国語部門「中文会話倶楽部」の活動は、例年通り、中国人留学生が担当し、毎週月曜日の昼休みに横浜校舎138教室で行なわれた。活動は春学期と秋学期それぞれ11回と12回開催された。毎回2～5名の参加者があり、全員中国語を学び始めたばかりの1年生であった。今年度は主として授業内容の補習や実践的な会話の練習、または留学に関する書類作成などの各種の相談が行われた。春学期に発音と声調がうまくいかず、苦戦していた学生が何人かいたが、練習を重ねていくうちに、次第に上手になり、練習の成果が小テストでも発揮できたと見られる。その後、参加者たちはさらに学習意欲が高まり、ほぼ毎週倶楽部活動に参加し、留学生を相手に音読の練習をしたり、単語を暗誦したりして、熱心に中国語に取り組んでいた。また、参加者の一人から「中国語の文法や単語をわかったつもりでいても、いざ会話をしてみると意外と話せなかったり、会話が聞き取れないこともあり、中国語の難しさを痛感した。しかし、会話のなかで自分の分からなかった文法や単語も覚え直すことができ、会話も多少できるようになったので、毎回とても実りのある時間を過ごすことができた」といった感想も寄せられた。

## 2.5 韓国語部門：金珍娥

2018年度 韓国語ランゲージラウンジは横浜校舎において以下のような日程と体制で週1回実施した。

### ●横浜校舎

担当講師：高槿旭（コ・グヌク）

実施期間：春学期2018年4月24日～7月17日（毎週火曜日）  
秋学期2018年9月25日～12月18日（毎週火曜日）

教室：明治学院大学横浜校舎 138教室  
時間：12時30分～13時20分  
人数：春学期 3～6人 秋学期 3～5人

担当講師の高槿旭先生から以下のようなことが伝えられた。  
話す能力の向上を最大の目標とした。具体的な内容と、成果は次のごとくであった。

## 1. 学習の内容

料理、就職、趣味といった身近なテーマを中心に、韓国語で語り合う。主に、日本語圏と韓国語圏の文化の相違点について、話す練習を行った。最近のニュースや好きなドラマなどの内容をまとめて話す練習も行った。

## 2. 学生の反応と成果

様々なテーマに関わる語彙や表現を中心に、コミュニケーション能力の向上を目指した。韓国圏への留学を希望している参加者が多く、積極的に参加しており、学習意欲も高まったと言える、学生の意見としては、韓国語でたくさん話せるのが嬉しい、少人数で話しやすい、という意見が多かった。また、ランゲージラウンジの参加によって、韓国語の授業を履修しなくても、韓国語に触れる機会が得られて良かった、という意見もあった。

総括して、このランゲージラウンジの授業を通して参加者の話す能力の向上、学習モチベーションアップを図ることができたと言える。